

【学校評価保護者アンケート結果のお知らせ】

2 月 27 日（木）に本校で行われた今年度最後の学校運営協議会で委員の皆様にも報告しています。さまざまご意見を頂戴していますので、今後の学校経営に生かしていきたいと思えます。回収率 89% 4 点満点

	評価項目	1学年	2学年	3学年	全体
1	学校は、子どもたちが生き生きと楽しい学校生活を送ることができるように努めている	3.4	3.3	3.1	3.3
2	学校は、子どもたちにわかりやすい授業をしている	3.1	3.2	3.2	3.2
3	学校は、保護者や地域の願いにこたえようと努めている	3.2	3.4	3	3.2
4	学校は、子どもたちの実態を把握し、理解しようと努めている	3.2	3.3	3	3.2
5	学校は、保護者からの連絡や相談に、丁寧に対応している	3.3	3.3	3.1	3.2
6	学校は、いじめ未然防止や子どもたちの問題となる行動について、適切に指導している	3.2	3.1	2.8	3
7	学校は、校報や学年・学級通信で、学校の様子をよく伝えている	3.3	3.6	3.4	3.4
8	学校は、子どもたちの豊かな学習活動のために環境を整えるように努めている	3.2	3.2	3	3.1
9	学校の諸行事や諸活動は、子どもたちにとって有意義なものになっている	3.3	3.4	3.3	3.3
10	学校は、保護者や地域の方々との連携を大切にしている	3.3	3.2	2.9	3.1
	全 体	3.3	3.3	3.1	3.2

昨年度に引き続き、10 項目で行いました。アンケート結果からは総じて良い評価（全体で 3.2＝80 点）を頂いていますが、昨年度比で 0.2 ポイント減となっています。

特に、項目 6 については、昨年度まで年 2 回の生徒を対象にした生活アンケートを、今年度は1 か月に 1 回に増やして、よりきめ細かな観察と対応に努めてきましたが、まだ改善すべき点があると捉えています。教職員の研修等を取り入れ、具体的な支援の仕方を学びながら、なお一層生徒が安心して生活できる環境を整えていきます。自由記述には、授業（学習）、生活支援・生活指導、教育環境等に関するご意見が多数寄せられています。中には学校では直接できないような内容（校舎の補修やエアコンの整備、スクールバスの運行等）があり、項目 8 の評価につながっていない側面もあると考えています。数値とご意見を精査し、教育委員会とも連携してできることから、取り組んでいきたいと考えています。率直なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。いずれ、学校は「人間が社会の中でよりよく生きていける力をつける場」とであるという共通認識のもと、基本的には生徒たちが自立する力をつけることが肝要であることを念頭に、決して重大事態に至るようなことがないように、保護者や地域とともに教育活動を推進したいと考えますので、引き続き、ご理解・ご協力をお願いします。

励ましや感謝の気持ちを届けてくださったご意見も本当にたくさん頂戴しています。保護者や地域の皆様方におかれましては、改めまして、この 1 年間のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

【卒業式の式辞】

本日話したものです。改めましてご卒業おめでとうございました。（裏面へ）

まずは、この度の大船渡山林火災で被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。一昨日は東日本大震災から十四年目にあたる日でしたが、また大きな災害が発生し、大変な思いをしていることでしょう。先日、各ご家庭にご協力をいただき、必要な物資を当地に送りました。ありがとうございました。まだまだ元の生活に戻るには時間がかかるでしょうが、一刻も早い復興を皆で願いたいと思います。

さて、このような中ですが、本校では、紫波町副町長 藤原博視様、同町教育委員会教育長職務代理者 畠山秀一郎様 P T A 会長、高野智章様をはじめ、多くのご来賓の皆様方と保護者の方々のご臨席を賜り、本日、こうして無事に、卒業証書授与式をとり行うことができました。本当に喜ばしいことです。関係するすべての皆様方に心から感謝申し上げます。

三十三人の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ中学校生活集大成の日を迎えました。『中学校は心身ともに子どもで入学し、心身ともに大人になって卒業するところ』です。どうでしょうか。振り返ってみて、自分自身、そのような三年間を送ることができたでしょうか……。一人一人感じ方は違うでしょうが、私は、特にこの一年、みなさんの成長を充分に感じてきました。二つ話します。

一つ目。運動会、三中祭、部活動、地域行事……。すべての活動において、自分たちで楽しみつ、全体を成功に導くため、“今、どうするべきか”をよく考え、話し合い、行動に移す姿が見られました。このこと自体が素晴らしい。このこと自体が大人へ一歩一歩着実に成長しているということです。みなさんの自主的かつ積極的な姿勢が令和六年度の紫波第三中学校の発展に大きく貢献したと言えます。本当にありがとう。自信をもってこれからの道を歩んでいってください。

二つ目。年度途中、担任の先生がお休みになり、とても心配したと思います。不安も感じたと思います。でも、きっと学校生活をしっかり送ることが担任の先生を励ますことに繋がると全員が思っていたのではないのでしょうか。今日中川先生も無事、式に参加し、みなさんを見守っています。本当によかったです。今年はこのこともあって、私自身がみなさんと関わる時間が多くありました。授業で教室に入ると雰囲気がいい。課題に対して考えたり、話し合ったりする時間は本当に真剣で、さすが本校の三年生であると感じました。社会科の授業の感想には、「政治や経済が複雑に絡んでいるから自分たちの生活が成り立っているのだと思いました」「他の教科とつながる部分もあり、面白かった。テレビに出てくる WHO などもわかるようになり、ニュースが理解できるようになった。世界の問題を知ることができたので、できることを探して行動していきたいと思う」というようなことを全員が書いていました。“学校の勉強を実生活に照らし合わせて考えることができる”というのは、もう次のステージへ旅立つ力を充分身につけているということです。自信をもってこれからの道を歩んでいってください。

保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。中学校は、心身ともに大きく成長する三年間です。今、凜とした面持ちで、立派に成長した、ここにいる子どもの姿をみたとき、きっと、お一人お一人、感慨深いものがあると思います。私が直接かかわったのは二年間ですが、この二年でも子どもたちはたくましく成長してきたと感じています。頼もしささえ感じます。これからも支えになり、それぞれの生活を充実させてくれることを願っています。これまでの学校に対するご理解とご協力に心から感謝いたします。

ご出席いただいたご来賓の方々におかれましても、今後とも引き続き、卒業生へご支援・ご協力をいただければ幸いです。最後になりますが、卒業生三十三人の前途を祝し、みなさんの未来が輝かしいものになることを祈念して私からの式辞といたします。

「校報あずまね」は今号が今年度最後の発行となります。1 年間お読みいただきありがとうございました。